（試験研究課題年次別解説集様式３号：完了課題用）

ガラモ場の多面的機能評価及び造成に係る基礎研究

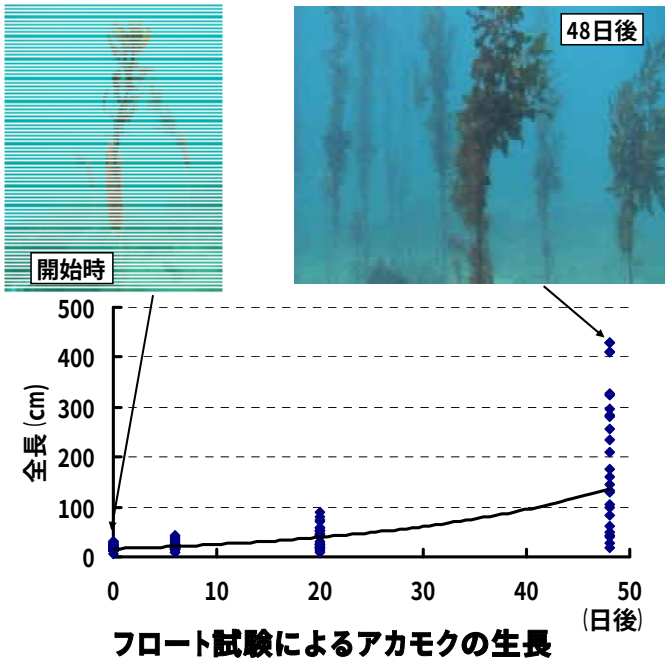
（予算区分　県単　研究期間　平成 17 年～19 年度）
担当：伊豆分場

【研究の背景とねらい】

- ホンダワラ類は藻場の重要な構成種ですが、地域によってはガラモ場（ホンダワラ類の藻場）が衰退しており、漁業者からガラモ場造成の要望がありました。
- 本県ではホンダワラ類を漁獲対象としないことから、ガラモ場に関する研究は進んでいないのが現状でした。このため、ガラモ場の機能について不明な点が多く、ガラモ場の減少による影響を把握できていませんでした。

【研究成果】

- ガラモ場維持域（伊豆市土肥大久保）とガラモ場衰退域(沼津市内浦湾)でホンダワラ類の生態や分布、生育条件を明らかにしました。伊豆市土肥大久保地先では 13 年間で初めて起きたガラモ場消失現象を把握し、ホンダワラ類の生育不良や消失と高水温や高光量、魚の採食が一致していることがわかりました。ガラモ場が衰退した沼津市内浦湾南岸では、イソモクとヨレモクモドキの 2 種類が生育しており、平成 5 年と比べ全体量だけでなく種類も減少していることがわかりました。
- 内浦湾南岸で移殖によりホンダワラ類の生育が阻害される原因を調べたところ、幼体期におけるガンガゼの食害の影響が大きいと考えられました。そこで、幼体期におけるガンガゼの食害を防ぐため、防除方法について検討して小型フロートによるホンダワラ育成技術を開発しました。
- 魚類の成育場としての機能を評価するため、ガラモ場に蝟集する魚類相や稚魚の餌となるワレカラ、ヨコエビといったホンダワラ類に付着する端脚類の現存量を把握しました。また、魚介類の産卵場としての機能を評価するため、ガラモ場でのアオリイカの産卵状況を把握しました。



【研究成果の普及方法】

- 本研究により得られたガラモ場に関する基礎情報は、藻場造成技術の確立に貢献できるとともに、これからの藻場研究や磯焼け対策の基礎資料として活用できます。また、研修会等を通じて関係者に広く普及していきます。

（作成　平成 20 年 3 月）